KG JOURNAL

関西学院通信［関学ジャーナル］

特集
Special
世界市民を育む、学びがある。

ボランティアと社会貢献活動
踏み出す一歩から広がる自らの可能性

2018.1.17
258号

数字でみる関学
ボランティアについて

突撃！KG CLUB
応援団総部 吹奏楽部

学長のポケット

練達のための奉仕

関西学院大学のスクールモットーは、言うまでもなく“Mastery for Service”であり、「奉仕のための練達」と訳されています。この言葉を提唱された初代学長のベーツ先生は、このスクールモットーについて次のように書かれています。

「我らは弱きを欲しない。強からんこと、主たらんことを願う。しかし我らが主たらんと願う目的は、己れ個人の富を積むことではなく、世に仕えることでなくてはならない。」

自分の利益のためだけでなく、世界人類のために自分を鍛え強くあれと、ベーツ先生は訴えられたのです。

大学時代の皆さんがすべきことは、まさに自らを鍛え自分を強くすることだと思います。そのためにも、大学の時にしかできない読書や専門的な研究をすること、あるいは新しい幅広い経験を積むことが極めて大切になります。ボランティア活動もこの新しい幅広い経験の一つと考えられます。ボランティア活動を通して、現実社会の矛盾や不合理を学びとり、その解決のためになすべきことは何かを考え、解決に向けて自らの力を高めることの必要性に気付いてほしいと思います。その意味で、大学時代のボランティア活動は、「練達のための奉仕」と見なすことができるのではないでしょうか。

（学長・村田 治）

表紙人

澤 果林さん
国際学部4年生

学部や専攻での学びに加えて、もう一つの学びに挑戦する「ダブルチャレンジ制度」の3要素「インターナショナルプログラム」（留学などの国際交流）、「ハンズオン・ラーニング」（社会での実践型学習）、「副専攻」（他学部での体系的な学び）の全てを経験した。「充実した大学生活でした。関学は挑戦を後押ししてくれる大学。ここに来て本当に良かったと思います」と振り返る。

国際学部で学びながら、2年生の前期に商学部マーケティングコースで副専攻を始めた。同年の夏からは1年間、シンガポール国立大学へ交換留学。「同じ年くらいの学生が当たり前のように政治や将来のビジョンについて話していたことに刺激を受け、このままではいけないと感じました」と話す。

帰国後は、ハンズオン・ラーニングセンターが開講する「PBL特別演習『福島から原発を考える』」に参加して貴重な学びを得た。他にもさまざまな活動に参加して学びを深めてきた。「自分の世界に居続けることは簡単だし心地良いけれど、成長や発見は新しい世界や人と関わることで生まれる」。高校の時、先生にもらった言葉が今も心に残る。

後輩へのメッセージを聞くと、「やる前にあれこれ考えると動けなくなる。やってしまえば、意外と何とかなるもの。今しかできないことに全力で挑戦してください」と笑顔で話してくれた。

KG JOURNAL

関西学院通信［関学ジャーナル］

CONTENTS No. 258

1 学長のポケット
表紙人

2 特集
世界市民を育む、学びがある。
ボランティアと社会貢献活動
踏み出す一歩から広がる自らの可能性

9 就職の窓
就職活動本番！
キャリアセンターの多彩な
支援プログラムで準備・対策を
シューカツに勝つ

11 ひと人ひと

13 Research & Research
法学部 塚田 幸光ゼミ
理工学部人間システム工学科 井村 誠孝研究室

15 突撃！KG CLUB
応援団総部 吹奏楽部

17 My favorite KG
ウィルヘルム クワルネスさん
（ノルウェー）
GO Global!
木下 陽子さん（教育学部3年生）

18 数字でみる関学
ボランティアについて

19 Campus News
関学カプセル
KGグルメ
学院通信

24 世界の街角から
シンガポール 山本 歩さん

25 Libraring
おニュー特集

26 聖書に聞く
人間福祉学部宗教主事 嶺重 淑

特集
Special
世界市民を育む、学びがある。

ボランティアと社会貢献活動

踏み出す一歩から広がる自らの可能性

ボランティアや社会貢献活動は奉仕の活動でありながら、参加している学生たちは取り組みを通じて多くの学びと発見を得ています。参加しようと踏み出した一歩が彼らの可能性を広げ、大きな成長につながっているのです。実際に活動している学生に、学んだことや得たもの、今後の展望について聞きました。

1 折り紙をして交流　2 町歩きで現地の様子を確認　3 土砂によって崩れた阿蘇大橋　4 地震発生8カ月後も崩れたままの家屋　5 初参加の時は150人に向けて炊き出し　6 現地の方とおもち作り　7 くまモンを呼んでイベントを開催　8 毎晩行われる活動の振り返り　9 11月のリサーチ・フェアで活動について発信　10 昨年11月に撮影したがれき撤去の様子。少しずつ復興が進んでいる

熊本の現状とボランティアについて発信し、興味がある人の背中を押したい。

熊本地震現地ボランティア
菅 翼さん（総合政策学部3年生）

2016年4月に発生した熊本地震の被災者を支援しようとヒューマン・サービス支援室が中心となって展開している「熊本地震現地ボランティア」に参加しています。

初めて参加したのは、昨年2月の第4回活動です。それ以前から活動については知っていて興味もあったのですが、「日程が合わないから」など、どこか言い訳をして一歩を踏み出せずにいました。しかし、活動に参加した友人が撮影した現地の崩れ落ちた家などの写真を見て、気持ちが動きました。現地の被害状況については、ニュースなどでしか知ることがなく、具体的なイメージができていなかったのですが、その写真を見て衝撃を受けました。「現地に行かないといけない」という気持ちになり、参加を決めました。

初めての活動は、被害が一番大きいとされる益城町にある仮設住宅での炊き出しと、子どもや年配の方たちとの交流でした。他にも、町の現状を知るために、地元の方の案内で町を歩きました。地震発生時の話を聞きながら、崩れた家や散乱したガラスなどを見ると胸が痛み、多くのことを考えさせられました。

活動中は、一日ごとにその日の振り返りを先生や活動メンバーと一緒に行います。「ボランティアとは」「自分たちの活動は本当に力になっているのか」など、答えを出すことが難しい問いについて考えながら自分たちの活動を見つめ直します。その場で答えを出すことができないモヤモヤ感や、活動中に見た光景が心に残り、「もう一度参加したい」と強く思いました。

その後は9月、11月と続けて活動に参加。仮設住宅に「くまモン」を呼んだり、紙相撲やビンゴを使ったゲーム大会を開いたりするなど、被災地の方々に交流を通して喜んでもらえるような活動をしてきました。初めて参加した時から比べると、崩れた家が更地になり、そこに新しい家が建つなど、町は目に見えて変化していて「これが復興なんだ」と感じています。しかし、どれだけ復興が進んでいっても、地震があったことは忘れてはいけませんし、多くの人に伝えていかないといけないと思っています。

今後は、ボランティア活動や熊本の現状についての発信に力を入れていきたいと考えています。まだまだ現地の様子を知らない人が多いですし、ボランティアに関しても私のように「興味はあるけど踏み出せない」という人がたくさんいると思います。情報発信をしていくことで、そのような人たちの背中を少しでも押してあげることができればと思います。

1 移動に使うジプニー　2 現地の子どもと　3 訪れたピピアン小学校での集合写真　4 運動会で応援する子どもたち　5 シャボン玉で遊んだ時の様子　6 手作りの絵本を紹介　7 それぞれの作品は家に持ち帰って飾った　8 書道の授業で、みんなで作った作品　9 裏紙を使って作ったRINノート　10 日本語で「ありがとう！」と見送ってくれた子どもたち

フィリピンの子どもとの交流を通じ、積極的に行動できるようになった。

関西学院上ヶ原ハビタット
松下 佳乃子さん（法学部2年生）

途上国の貧困や劣悪な住まい の問題に焦点を当て、住居建築や自立支援に取り組むNGO「Habitat For Humanity」の学生支部「関西学院上ヶ原ハビタット」で活動しています。その中で、フィリピン中部のビコール地方の孤児院や小学校に行って、文化交流や物資支援をする「RIN」という活動をしています。

「子どもと関われるボランティアがしたい」と何となく思っていた私は、入学してすぐにRINの存在を知って参加を決意。1年生の9月に初めてフィリピンを訪れました。首都マニラは想像していたよりもずっと都会という印象でしたが、ジプニーという乗り合いバスに乗って少し街を離れると、ごみの山があり、物乞いをする人がいて衝撃を受けました。子どもたちが裸足でいたことも印象に残っています。他にも、シャワーの代わりにバケツにためた水で体を流したり、現地の料理を味わったりなどさまざまな経験をしました。この時の活動は先輩に付いていくだけでしたが、初めてフィリピンで過ごした時間は、とても濃いものとなりました。

2年生になると、副リーダーを務めました。RINでは、約25人のチームを二つ作り、チームごとに8月と9月に分かれてフィリピンを訪問します。滞在期間は約2週間で、そのうち10日間は施設を回って支援活動をします。孤児院と小学校では、私たちが考えた授業や、運動会、お祭りなどの行事を実施します。小学校では日本の文化を体験してもらおうと書道教室を開きました。1年生の時とは違い、メンバーの体調を気にしたり、スケジュールを考えたり、施設規模や子どもの数の確認をしたりと大変なこともたくさんありました。特に、訪問予定の学校が急な大雨で休校になった時は、スケジュール変更の対応にとても苦労しました。

物資支援活動では、メンバーから集めている運営費や街頭募金で集めた資金で、文房具や日用品を購入して寄付しています。その他にも、私たちが使わなくなったプリントの裏紙を使って作成した「RINノート」も毎年寄付しています。現地の子どもたちの中には、持つことも難しいくらいの短い鉛筆しか使えない子もいるので、私たちの寄付が少しでも彼らの役に立っていればうれしいです。

活動を通してさまざまな経験をし、入学時よりもかなり積極的に行動できるようになったと感じています。今年の春休みは、RINのメンバー数人でもう一度フィリピンを訪問したいと考えています。昨年の訪問先に、ストリートチルドレンの男の子ばかりいる孤児院があったのですが、両親がいない環境で育った彼らは私たちを母親のように慕ってくれました。活動期間中は1日しか同じ場所に滞在できないので、今度は活動とは関係なしに、その子たちとゆっくり時間を過ごしたいと思っています。

1 観光案内所などに貼られている広告　2 竹田城跡　3 城跡に向かう途中の山城の郷で人気の写真スポット　4 5 バスの車内広告　6 城下町竹田の風景　7 現地調査の様子　8 地元住民へのヒアリングの様子　9 一緒に調査をしたメンバーと記念撮影　10 企画発表の様子

物事を深く考える習慣が付き、自分の地元にも関心を持つように。

社会探究実践演習
朝来・竹田城下町活性化プロジェクト
井上 七海さん（商学部2年生）

ハンズオン・ラーニングセンターが開講している「社会探究実践演習」（朝来・竹田城下町活性化プロジェクト）に参加し、現地の商工会等と連携して城下町竹田を活性化させる活動に取り組みました。竹田城跡は、その美しい景観から「天空の城」や「日本のマチュピチュ」と呼ばれる人気の観光地ですが、城下町は、その魅力を十分に観光客に伝えられていなかったため、人が集まらない状況にありました。そこで、城下町にも観光客が訪れるようにし、経済活性化につなげる解決策を提案しようと決めました。

まずは現地で観光客に向けたアンケートと、地域住民や商店街の人へのヒアリングをしました。集めた150以上の観光客へのアンケートと、質的データを集めるための住民と観光客へのヒアリングの結果を分析すると、観光客のほとんどが城跡を訪れた後、城下町を訪れず近くにある別の有名な観光地へ向かっていることが判明。城下町の情報が届いていないため、存在自体があまり知られていないことが明らかになりました。そこで、竹田駅と城跡をつなぐバスに、城下町の観光を促すための車内広告を出そうと考えました。数十種類の広告案を作成して全但バスや朝来市商工会などに提出し、期待できる効果や今後の展望などについて発表しました。結果、6種類の広告が採用され、昨年の10月から車内に掲示されるようになりました。

社会探究実践演習では、これまで受けてきた授業のように誰かから「問題」を与えられることはありません。町の現状を分析し、自分で課題を見つけなければならないことに難しさを感じました。「そもそもこれは課題なのだろうか」「解決する必要があるのだろうか」など、さまざまなことを考えました。また、解決案を考える際には、全ての人にメリットがある売り手良し、買い手良し、世間良しの「三方良し」の考えを持って動かなくてはならないことを実感しました。

今回、車内広告を出すことはできましたが、まだまだ地域活性化の課題は残っていると感じています。まずは、車内広告をより多くの人に見てもらうための工夫が必要だと思いますし、現地の変化や地域住民が今感じていることなどについて継続して調査する必要があると思っています。それに加えて、1月中の発売を目標にしている朝来市の旅行プランも作成中なので、魅力をしっかりと伝えられるものを作りたいと思っています。

先生からは「何事もさまざまな面から考えることが大切」と言われてきました。そのため、物事を深く考える習慣が身に付いたと実感しています。今までは地域についてじっくりと考える機会を持ったことがなかったのですが、活動を通して自分の地元にも関心を持つようになりました。今後は時間をつくって自分が住む地域の現状や課題、発展などに関しても考えてみたいと思います。

1 オフィスの前で　2 スタッフが企画してくれたお別れ旅行　3 セミナーの手伝い　4 ゾウとの触れ合い　5 タイの王宮こと、ワットプラケオ　6 タイの夜景　7 英語研修プロジェクトでスタッフの人たちと　8 観光名所アユタヤ　9 現地の料理。一皿驚きの120円　10 水上マーケット

さまざまな人と話をする中で、小さな積み重ねや努力の大切さを実感。

国際社会貢献活動
半井 翔汰さん（経済学部3年生）

昨年の4月から約5カ月間、タイにある泰日経済技術振興協会（TPA：Technology Promotion Association）に派遣され、さまざまな業務の支援をしました。TPAは、日本の最新技術や知識をタイへ伝達すること、また、人材育成を行うことを目的とした組織で、文化交流や学生支援などのイベントも開催しています。

最初の1カ月半は業務をしながら、現地スタッフとの信頼関係構築に力を注ぎました。組織には約200人のスタッフがいましたが、私の上司以外の大多数は英語でコミュニケーションが取れず、彼らと信頼関係を築くことはとても困難に思えました。しかし、不満を言っても仕方がないと、毎朝7時にはオフィスに行き、会う人全てにあいさつするようにしました。昼食時や仕事後もスタッフの方と積極的に食事に行き、英語と片言のタイ語を使ってどんどん会話することを心掛けました。すると、もっと英語を学びたいというスタッフが私の隣の席に来てくれたり、逆にスタッフから食事に誘われたりするなど、徐々に良い関係を築くことができました。

業務では、現地でビジネスを展開する日本人に向けたセミナーの受け付けや運営の手伝い、資料の翻訳やPR動画の作成などを行いました。セミナーで配布する日本語資料には誤字脱字が多く、クレームの原因となっていましたが、一から見直したことでクレームは一切なくなりました。また、作成したPR動画も、現在、講演会などの際に使用されています。

これらの業務の他にも、上司からは「興味のあることにどんどんチャレンジしてほしい」と言ってもらったので、興味があった人材育成についても並行して調査しました。TPA主催のセミナーやバンコクで開催された国際会議などで名刺交換をし、総勢100人以上のビジネスマンから会社や人材育成について話を聞きました。タイでは、30歳で4社目などといったキャリアの人がたくさんいて、転職が当たり前のように行われています。日本企業の「人材を自社内で育てる」という文化は、そのような環境でも生きるのかについて考えることが、タイにおける人材育成や会社経営に役立つのではないかと考えました。

今回の活動を通して、さまざまな人と話をする機会が得られました。その中で感じたことは、どれだけすごい人も小さなことの積み重ねや地道な努力の先に今の姿があるということです。私も将来は、日本の教育をより良くしたい、一人ひとりの良さを十分に引き出せるようなものにしたいという大きな目標がありますが、そのためには、さらに多くの積み重ねが必要だと強く実感しました。これからも多くの場で学び、力を付けて、いずれは自分の思いや成し遂げたいことを価値あるものとしてプロデュースできるようになりたいと思います。

ボランティアについて考える

ボランティアは当事者と社会のパイプ役 小さな声を大きな力に変えることができる

地域福祉やボランティア、そのスキルであるコミュニティーワークやボランティアコーディネーションについて研究する人間福祉学部の岩本裕子非常勤講師。授業では「ボランティア論」を担当し、学外ではボランティアに向けたリーダー研修や専門職研修なども実施しています。岩本先生に、ボランティアについて語っていただきました。

日本では、ボランティアに対して「崇高」「清い」というイメージを持っている方が多いと思います。しかし、ボランティアは本来、社会において自然発生する人と人の助け合いであり、昔から当たり前のように存在していました。それがシステマティックになったときにボランティアと呼ばれるだけで、何も特別なことではありません。もちろん、災害などの緊急を要する支援は効率よく行動する必要があるので、システマティックにする必要はありますが、それによって「助け合い」という根本が変わることはありません。

私たちが生きる社会には、たくさんの課題があります。しかし、これらの多くは当事者だけでは解決できないものです。当事者がどれだけ声を上げても、その声は社会に広がりません。ボランティアとして、寄り添い、共に行動してくれる他人がいることで、その声は力となって社会に広がり、社会を動かすことができます。ボランティアは当事者に力を与え当事者と社会をつなぐパイプ役なのです。

日本でも海外でもボランティアの力は社会的に認知されてきてはいますが、褒められることにあまり慣れていない日本人は、前述のボランティアのイメージと相まって「褒められるためにやっているのではない」となってしまいがちです。もっとオープンにボランティアの活躍を発信して認め合っていっても良いと思います。また、ボランティアに参加している人自身も、個人的な思いから始まるボランティア活動ですが、一人ひとり、一つ一つは小さなことでも、それは社会につながり影響を与え、さらには社会を変えていく大切な細胞(パーツ)であり、社会にパワーを与えていく、なくてはならない血流であることを感じてほしいと思います。

最後に、今ボランティアをしている学生の皆さんは、楽しく、そして責任を持って活動してください。あなた方は、社会に影響を与える、なくてはならない存在です。ボランティアのいない社会はある意味、弱い社会だとも言えます。そこにやりがいを持って活動を広げていってください。活動に参加したいけれど迷っているという人は、ぜひ一歩を踏み出してください。自分の活動が社会を変えていくことを実感できるのはうれしいことです。不安があれば、ボランティアセンターに相談に行きましょう。「鉄は熱いうちに打て!」です。

ボランティア活動を支援

ヒューマン・サービス支援室を活用しよう!

2016年4月1日、関西学院大学におけるボランティアセンター「ヒューマン・サービス支援室」が開室しました。ボランティアをしたい学生には情報や活動を紹介し、すでにボランティアをしている学生や学生団体にはさらなる発展のサポートをしています。ボランティアコーディネーターの成安有希さんに、ヒューマン・サービス支援室の活用方法について伺いました。

ボランティアに参加するには?

ボランティアは「特別な活動」と思われることがありますが、決してそうではありません。誰でも参加することができます。ボランティアに興味がある人や「何かしたいけれど、何ができるか分からない」という人は支援室にお越しください。支援室には約300のボランティア情報があり、日時や場所など皆さんに合ったボランティアをコーディネーターと一緒に探すことができます。学生コーディネーターもいますので気軽に訪ねてください。ヒューマン・サービス支援室は、西宮上ケ原キャンパスの正門を入ってすぐ左手、門衛室の隣にあります。

具体的な活動は?

支援室でのボランティア紹介の他に、二つの活動を行っています。

①学内でのボランティア啓発イベント

ボランティアを身近に感じてもらう「ボランティアウィーク」や学内ボランティア団体を一斉紹介する「ボランティアEXPO」など、学内のボランティアを盛り上げるために年間を通してさまざまなイベントを開催しています。

②熊本地震現地ボランティア

被害の大きかった益城町で、これまでに7回のボランティアを行ってきました。避難所や仮設住宅での足湯や茶話会、子どもとの遊びなどの活動を通して被災地の方々と交流しています。今後も引き続き、被災地での活動を実施していく予定です。

今ボランティアをしている人へ

すでに個人や団体でボランティアをしている学生も、支援室を活用していただけます。「資金調達が難しい」「広報の方法が分からない」などの悩みも気軽に相談してください。私たちが全力でサポートします!

ヒューマン・サービス支援室 Twitter ▼▼▼

ボランティアサークル

フィリピンの女性と子どもと一緒に歩む学生団体

「くじら」

（神戸三田キャンパス）

「くじら」は神戸三田キャンパスを拠点とする国際ボランティア団体で、総合政策学部の学生約50人で活動しています。フィリピンへの継続した支援を通して国際問題への理解を深め、くじらに関わる全ての人がお互いを尊重し、それぞれの夢を応援し合える社会の実現を目的としています。

主な活動

▶販売活動

フィリピンの貧困地域に住む女性が作った刺しゅう商品を取り寄せ、学内や国際イベントで販売しています。夏休みには他大学の学生と一緒に京都から兵庫まで、自転車で7日間かけて移動しながら販売する「PAKS」という活動もしています。売上は全て現地に送り、彼女らの収入に充てられます。

▶募金活動

フィリピンで災害が起きたときや、貧困地域に住む子どもたちの学習支援のために宝塚駅や西宮北口駅で募金活動をしています。2016年の夏には、活動で集めた資金でフィリピンに図書館を建設することができました。現在は、図書の充実のために活動を続けています。

▶絵本企画

毎年、秋学期の間に、ストーリーも絵も全て自分たちで考えるオリジナル絵本を制作して現地に寄贈します。これまでに切り絵や飛び出す絵本も作ってきました。現在は、子どもたちに学んでほしいことをテーマに簡単な英語で書いていますが、現地の言葉でも制作したいと思っています。

学生の声

2017年度くじら代表
佐藤 彩香さん（総合政策学部3年生）

日本に居ながら国際的な支援ができることに加えて、継続して同じ人たちへの支援ができるため、4年間を通して現地の変化を感じられることが魅力だと思います。いつか、彼女たちが周りの支援がなくても経済的に自立できるようサポートを続けていきたいと思います。今のメンバーは総合政策学部の学生ばかりですが、他学部の方も大歓迎です!

乳幼児のあそび研究サークル

「子どもの友」

（西宮聖和キャンパス）

「子どもの友」は教育学部の学生約40人で活動している学生団体です。音楽に合わせて手でリズムやポーズをとる手遊びについて全員で学んでいます。また、その学びを生かしてボランティアにも積極的に参加しています。

主な活動

▶子どもたちと遊ぶボランティア

週末や長期休みの期間に、西宮聖和キャンパスの隣にある乳幼児センターや地域で開かれるお祭り、子どもが集まるイベントに出向いて、子どもたちと遊びます。一緒にスライムや紙飛行機を作ったり、私たちが手作りしたおもちゃなどを使った遊びの場を提供したりしています。保育士や幼稚園教諭を目指す学生が多いので、子どもたちと遊ぶのは得意です!

▶手遊び研究

週2回、昼休みに集まって手遊びについて勉強しています。毎回担当の学生が調べてきた手遊びを資料にまとめて、実際に全員で遊びます。手遊びは0歳から5歳児に向けたものなので、難しいと感じるところは自分たちで改善していきます。これまでの手遊びはファイルにまとめているので、実習先で子どもたちと遊ぶこともできます。

これから

新たな取り組みとして、「地域の子ども・子育て支援事業」をしている西宮聖和キャンパスの「さぽさぽ」で、保育園に入れなかった子どもたちの1年間を保護者の方々と一緒に考え、より良くしていけるような活動をしたいと考えています。私たちが得意な遊びを生かしながら、保護者の方の不安も和らげられればと思っています。

学生の声

左から
宮本 詩歩さん
西原 朱音さん（代表）
齋藤 琴子さん
（いずれも教育学部2年生）

ボランティア先で、お母さんたちから「外でずっと子どもを見るのは大変だけど、こうして一緒に遊んでくれると、子どもも喜ぶし、すごく助かる」と言葉を掛けてもらったことがうれしかったです。まだまだ失敗もありますが、メンバーと話し合った遊びで子どもたちが喜んでくれるとやりがいを感じます。これからも子どもたちとの触れ合いを大切にしたいと思っています。

就職活動本番！ キャリアセンターの多彩な支援プログラムで準備・対策を

就職の窓

企業が広報活動とエントリー受付を開始する3月が迫ってきました。3年生、M1年生は、いよいよ就職活動本番を迎えます。今号ではキャリアセンターが開催する各種就職セミナーや説明会などの情報を紹介します。情報をチェックして就職活動に生かしましょう。

4年生・M2年生のSR（Student Reporters）に後輩へのサポート内容や就職活動の体験談、アドバイスなどを伺いました！

岡野　就職活動で大切にしてほしいのは「自己分析」と「自己PR」です。自分の特徴や強みは何なのかを把握することはもちろん大切ですが、それらの伝え方を整理しておくことも大切です。私の場合、アピールしたいことは決まっていたのですが、それをうまく伝えることができず苦労しました。自分だけで考えるのではなく、周りの人にも協力してもらい時間をかけてやるべきだと思います。

黒澤　私も「自己分析」が大切だと思います。自分の「したいこと」や「目標」などを理解していないと、「良い会社」と言われる所に就職したとしても軸がぶれて自分を見失ってしまうかもしれません。私は、自分を理解するために小学校時代から今までを振り返り「幸せだったこと」「落ち込んだこと」などを書き出した「自分史」を作りました。そうすることで自分が幸せを感じる共通のポイントが分かり、本当に好きなこと、情熱を注げることが明確になり、志望業界も絞りやすくなりました。

岡野　私は業界や企業についてほとんど知識がなかったので、身近なものから企業を調べていきました。スーパーでアルバイトをしていたので、周りにある商品を手に取り、それを作っている会社を調べることから始めました。そこから会社同士のつながりなども意識していくことで、視野が広がっていったように感じます。

黒澤　「社会人慣れ」しておくことも効果的だと思います。ほとんどの学生にとって、社会人とこれほど多く関わるのは就職活動が初めてだと思います。私自身、初めての面接は緊張して、企業名もうまく言えませんでした。キャリアセンターに行けば、先輩名簿があるので、連絡を取って先輩訪問することも可能です。先輩訪問をすることで、その企業についても知ることができますし、社会人の方との関わり方も学べると思います。

岡野・黒澤　周りに就職活動について相談できる人が少ないのであれば、ぜひ私たちSRを活用してください。「海外経験豊富」「公務員か民間企業かで迷った」「インターンにたくさん行った」といったメンバーはもちろん、「部活もサークルもしていない」というメンバーもいるので、さまざまな視点からアドバイスができます。就職活動は将来を考える良い機会です。面倒くさがらずにじっくり考えてほしいと思います。何か相談したいことがあれば、いつでもお待ちしています！

SR

社会学部4年生
黒澤 龍太郎さん
株式会社日立製作所内定

SR

理工学研究科M2年生
岡野 友貴さん
東海旅客鉄道株式会社（JR東海）内定

SR（Student Reporters）…4年生の就職内定者が後輩を親身にサポートする組織。
自分の経験を生かした就職活動の相談など、先輩だからこそできるサポートを行います。

個人面談

経験豊富なキャリアアドバイザーが、自己分析や履歴書・自己紹介書、エントリーシートのアドバイス、筆記試験対策、面接トレーニングなど、就職活動におけるさまざまな相談に柔軟に対応します。毎年早期に個人面談を利用した学生は早期に内定を獲得できる傾向にあることが、利用実績データでも証明されています。積極的に活用し、具体的な対策を進めましょう。

実施日

◆1月～3月（㊊～㊏毎日開催中）
西宮上ケ原・西宮聖和・神戸三田・大阪梅田キャンパス（西宮聖和キャンパスは1月の平日のみ）
※「KGキャリアナビ」で、面談当日7日前の10時から予約受付しています。

就職活動直前 キャリアガイダンス

いよいよ就職活動が本格的に開始となります。文系対象では就職活動シミュレーション映像から直前対策を学び、就職活動の成功談・失敗談について内定学生がパネルディスカッション形式で語ります。理工系対象では、理工系学生の就職活動のポイント、直前準備について、最新の企業動向をもとにお伝えします。これまでのガイダンスに参加していない人はもちろん、参加していた人も最新情報を収集して、しっかり準備を整えましょう。ぜひ、参加してください。

実施日

◆1月30日㊋〈1回目13:30～15:00〉〈2回目15:30～17:00〉（2回とも同じ内容）
［文系対象］西宮上ケ原キャンパス
◆1月30日㊋13:00～14:40
［理工系対象］神戸三田キャンパス
※理工系学生でも、文系職種の就職希望者は、西宮上ケ原キャンパスのガイダンスに参加してください。

SR相談室

SRがどんなささいなことでも個別の相談に応じます。就職活動を終えたばかりの先輩たちだからこそ分かってもらえることも多いはず。気軽に相談してください。

実施日

◆2月1日㊍～28日㊌の平日13:00～17:00
大阪梅田キャンパス

※各プログラムの実施日、開催場所の詳細は、教学Webサービス「キャリア」タブ内の「KGキャリアナビ」でお知らせします。

シューカツに勝つ 先輩の就職活動

トヨタ自動車株式会社
窪田 智一さん
（2016年法学部卒）

私は今、トヨタ自動車の製品企画部という部署で乗用車やその部品のコストを担当しています。「カッコいい」「エコ」「安全」等、いいクルマにはさまざまな要素があり、いろんな関係部署が日々これらの要素を満たすため奔走しています。そうした中で、関係部署に対しさらにもう一つ、「低コスト」という要素を数値目標として提示し、何が何でも達成していただく、という泥臭く根気のいる仕事を担当し、粘り強く仕事に打ち込んでいます。

恥ずかしながら学生時代の私は体育会でも、優等生でもなくサークル活動やアルバイトに明け暮れていました。そんなどこにでもいる大学生だった私が就職活動を終えて思うに、内定をもらうために必要なことはただ一つ、「なぜこの会社で働きたいか」を面接官に語り、納得させること。それだけだと思います。そのためには納得に値するロジックと熱意が必要です。学生時代の経歴の華々しさ、持っている資格なんてものは二の次です。自分がどんな人で、どんなとき、どんなことのためなら力を発揮できるか、この会社はどういう会社でなぜ自分が働くのか、ストーリーを立ててロジカルに話をするには、前準備として自分を知ること、会社を知ることが必要です。

どうか志望動機から考えるのではなく、まずは自分をあらゆる切り口から見つめ直してください。それもたっぷり時間をかけて。なぜこんなことをしたのだろう?なぜこれは続けられた?なぜこのとき頑張れたのだろう?そしてさらになぜ?なぜ?を繰り返し、それ以上分解できなくなった答えが面接で話す内容です。

最後に、前向きに息抜きもしながら楽しんでください！でも、人生1回きり、後悔のないように！応援しています！

業界・仕事研究セミナー

年内の業界研究セミナーに続き、2月は「深く業界を知るためのセミナー」を開催します。各業種における主な企業を知り、企業ごとの違いを知る。業界理解を深め、自分なりの選社軸や目的意識を確立しましょう。就職活動本番を前に、自分に合った働き方を考える機会としてください。

実施日

◆1月31日㈬～2月8日㈭ 大阪梅田キャンパス
◆2月9日㈮～27日㈫ 西宮上ケ原キャンパス

学内企業説明会

企業が広報活動を開始する3月から開催します。関学生を積極的に採用したいという意欲のある800以上の企業・団体が「事業内容」や「採用選考プロセス」「求める人材」などを話します。この説明会をきっかけに内定を得た関学生もたくさんいます。各企業の特性を知る機会としてください。

実施日

◆3月以降
西宮上ケ原・神戸三田・大阪梅田キャンパス
※西宮上ケ原・大阪梅田キャンパスは文理共通、神戸三田キャンパスは理工系職種希望者対象で開催します。

面接トレーニング

企業の採用面接を熟知した講師が、ビジネスマナー・集団面接とグループディスカッション対策を伝授します。面接は「皆さん自身のありのままの良さ、魅力」を伝えることが大切です。このセミナーを通じて本番さながらの緊張感を体験し、面接の雰囲気に慣れておくことが重要です。現在の自分の力や課題を認識して就職活動に役立てましょう。毎年多くの先輩が活用し、満足度の高いプログラムです。

実施日

◆2月～3月
西宮上ケ原・大阪梅田キャンパス（事前予約制）
※「KGキャリアナビ」で、開催当日7日前の10時から予約受付しています。

最短の学びで司法試験に一発合格 依頼者を笑顔にする弁護士に

相原 健吾さん　2017年 司法研究科修了

最短5年で司法試験合格を目指す司法特修コースの1期生として学び、法学部を3年で早期卒業し、法科大学院の法学既修者課程を2年で修了。昨年、初めて受けた司法試験に合格した。「依頼者の気持ちに寄り添い、全力を尽くせる弁護士になりたい」と意気込む。

弁護士に興味を持ったのは大学1年生の時。卒業生で弁護士の小島幸保さんの講演を授業で聞き、「それまで持っていた弁護士の堅くて難しいイメージが一変し、魅力を感じた」と話す。同じタイミングで司法特修コースの新設を知り、挑戦を決めた。

「現役の弁護士や法科大学院の先生の話を少人数で聞くことができ、将来のビジョンが明確になっていった」と学部時代を振り返る。大学院入学後、一時は成績を落としたが、いつでも話を聞いてくれる先生や友人に支えられて奮起。毎日朝から晩まで机に向かって力を付けた。最終学期にはトップの成績を収め、自信を持って試験に臨むことができた。

「合格を知った時は、ほっとした。応援してくれた両親や親戚、お世話になった方々にすぐに電話で報告しました」と感謝の気持ちがあふれた。今後は、1年間の司法修習を経て、弁護士を目指す。「依頼者の抱える問題を解決するだけでなく、心の面でもケアをして、笑顔になってもらえるような仕事をしたい」と目を輝かせた。

勉学に、スポーツに、趣味に―。
さまざまな分野で一生懸命に頑張るKGピープル。
きらきらと輝く横顔を紹介する。

ラクロス日本代表として ワールドゲームズで全試合得点

青木 佑夏さん　社会学部4年生

昨年7月にポーランドで開かれた「第10回IWGAワールドゲームズ」に、ラクロス女子日本代表として出場。行われた3試合全てで得点するなど活躍を見せた。ワールドゲームズは、4年に一度、夏季オリンピック・パラリンピック競技大会の翌年に開催される国際総合競技大会で、「第2のオリンピック」とも呼ばれている。「体も技術レベルも海外選手との差を感じたし、道具の使い方やパスのバリエーションについても学ぶことが多かった」と振り返る。

高校まではバスケットボールに打ち込み、目標としていた全国大会出場も果たしたが、「変化や挑戦することが好き」と進学を機にラクロスを始めた。「大学から始める人が多く、努力次第で大きな成果を出せるし、本気で日本一を目指すところに魅力を感じた」と話す。「常に考えて練習すること」を大切にして努力を重ね、2年生からスターティングメンバーとして活躍。3年生の時には悲願の日本一を達成した。

「性格上、チームや仲間のサポート役に回ることが多かったが、4年生になってからは、ポジションリーダーをしたり代表に選ばれたりと、前に立つことが増えた。責任を持って決断する難しさを学ばせてもらった。卒業後もこの学びを生かして競技を続けたいと思います」と笑顔を見せる。

ゲームの奥深さにやりがい
世界大会〝ポケモンWCS〟に出場

衣川 雄磨さん　経済学部3年生

昨年8月に米国で開催されたポケモンのゲームとカードの世界大会「ポケモンワールドチャンピオンシップス（ポケモンWCS）」に初めて出場した。競技人口は世界に数十万人といわれる中、ゲーム部門世界53位となった。

ポケモンWCSは、国内予選を勝ち抜いた上位50人のみに出場権が与えられる。延べ約5万人が参加した国内予選では、日々の対戦で鍛えた実力で世界への切符を得た。

ポケモンWCSの予選に当たる1日目、持ち前の負けん気を発揮し、5勝2敗で2日目に駒を進めた。2日目も各国の強豪と互角に戦った。だが、ゲーム特有の「運」に見放されて惜敗を重ね、決勝には進むことができなかった。

本格的に大会に参戦したのは、高校生の時。「今は時間がある限り、勝つためにできることを考えている」と熱中し、ロンドンやオーストラリアの国際大会にも腕試しに行くほどだ。ロンドンでは、ベスト16に入賞し、本番でも安定した強さを出せるまでに成長した。無限にある戦略や相手との駆け引きなど奥深さにやりがいを感じている。「トップとの差は意外となく、自信になった。今後も本気で打ち込み、世界一を目指したい」と燃えている。

ひと人ひと

アフガニスタンの農村の暮らしを紹介
国際開発学会奨励賞を受賞

林 裕さん　人間福祉学部助教

著書「紛争下における地方の自己統治と平和構築―アフガニスタンの農村社会メカニズム」（ミネルヴァ書房）で、国際開発学会奨励賞を受賞した。「アフガニスタンは第二の母国。現地の生の声を世界に届けるのが私の使命」と話す。

アフガニスタンの農村で営まれている一般市民の生活を中心に紹介した。地域社会では、伝統的な「民主主義」の理念が根付いており、国家に頼らない自己統治制度が確立されている。中央政府の再建など国家レベルでの平和構築だけでなく、地方における住民の自己統治を生かしていく重要性を指摘している。

研究はフィールドワークが中心だ。老若男女問わず話を聞き、人生の物語をまとめる。「みんな辛い経験をしているのに、人情に厚く、前向き。人懐っこい一面もあり、人間的な魅力がある。研究の対象者でありながら、何でも語り合える仲になった」。長年の調査で、信頼関係も築いた。

最初にアフガニスタンを訪れたのは2003年。約8年、地雷撤去や元兵士の社会復帰、戦争未亡人支援などに携わった。「国際開発の研究は欧米が盛ん。日本人だからこそできるアジアからの視点で議論に加わり、この分野のさらなる発展と被支援国の発展に貢献したい」と意気込む。

アフガニスタンで住民と

法学部
塚田幸光ゼミ

アメリカ映画に隠された政治学をクロスメディア的視点で分析する

専門は表象文化論、映画学で、「文化とは何か」を大きなテーマに研究しています。特に関心があるのは、アメリカ映画が映し出す政治学で、クロスメディア的視点を持って分析することを大切にしています。

例えば、あるテクストを論じる場合、その作品だけで論じることはできません。コンテクスト、つまり歴史や文化、社会的背景が必要なのはもちろんのこと、同時代の雑誌や絵画、映画、文学といった他のメディアからの情報も取捨選択して意見を組み立てていくことが大切です。

製作過程で多くの人が関わる映画の場合、クロスメディア的分析がより重要となります。映画会社やスポンサー会社、製作スタッフや演者など、多数の「声」を引き受けて作る映画とは、「複合芸術」の別名です。ですので、一つの映画を見るにしても、さまざまな視点から見ないことには「なぜこの映画ができたのか」を語ることはできません。映画は「時代を映す鏡」と言われますが、それは直接的に映さない「メタファーとしての鏡」です。そこに隠された真意、作り手側の多様な政治学を読み取ることが大切です。

ゼミでは、学生に対して「これをやりなさい」と強要することはありません。3年生のうちは自分の興味を追求し、みんなの前で複数回発表してもらいます。一夜漬けではなく、深く学ぶことで、自分の研究をしっかりと他人に伝えられるようになってほしいと思っています。同時に、ディベートも何度か開きます。「資本主義は必要か」「軍事力は必要か」などをテーマに、肯定派と否定派に分かれて話し合います。双方の意見について考えることで、視点を変えて物事を見る力が身に付くと考えています。学生たちには、何か知識を学ぶというよりも、考え方や物の見方を養ってほしいと思っています。

塚田 幸光 教授

映画が扱うテーマや時代について研究・発表

水引 佑紀さん
法学部4年生

2年生の時に受講した「表象文化論」が面白く、塚田ゼミを選びました。先生が用意した映画から好きなものを選び、その映画が扱っているテーマや時代について研究して発表します。一番印象的だったのは、3年生の時に見た「命の食べ方」という食料生産の現場を撮影したドキュメンタリー映画です。人が淡々と動物を処理する様子が描かれ、食に関して改めて考えるきっかけになりました。その後、食肉工場の歴史やそこで働く人への差別、食品ロスの国内外の現状や対策について調査。フランスがスーパーの食品廃棄を禁止する法律を作ったことを例に出して授業で発表しました。

映画は、麻薬、難民、戦争などさまざまなテーマを扱うため、好奇心が広がってニュースの見方も変わってきました。先生からは「映画を100本見なさい」と言われているので、少しでも多くの映画を見て、知識や関心を深めていきたいと考えています。

理工学部人間システム工学科
井村誠孝研究室

実世界では体験困難な状況を体験可能にする バーチャルリアリティ技術を研究

「百聞は一見に如かず」という言葉がありますが、見るだけでなく体験することはより強力な印象を与えます。いわば「百見は一験に如かず」です。人の想像力には限界があり、時として現実は想像の範囲を凌駕(りょうが)します。思いもよらない状況に落ち入り、呆然としたことは誰しもあるのではないでしょうか。

以前、企業と共同で、トンネル火災時における煙流のシミュレーション結果をコンピューターグラフィックスで可視化する研究を行いました。実際に開業前の箕面トンネル内で車両事故に見立てた火災を発生させ、煙の広がり方を計測する実験を見学しました。実験が始まって、煙がトンネルの奥からこちらに向かって流れてくるのを眺めていたところ、いつのまにか周囲の人がいなくなりました。不思議に思い、周りを見回していたわずかな間に、さらに煙が押し寄せてきて、あっと言う間に煙で視界が奪われてしまいました。慌てて煙と反対方向に走り、脇のトンネルに避難して事なきを得たのですが、煙の充満する速さ、視界が失われたときの恐怖感は、体験しなければ分からないものでした。若干の冷や汗と共に、経験することの重要性を実感しました。

専門とするバーチャルリアリティ(以下、VR)技術は、実際に体験することが困難な(災害など)、あるいは危険が伴う(綱渡りなど)、そして失敗が許されない(手術など)状況を、現実感を伴って体験可能にする、体験拡張技術です。私の研究室では学生たちと一緒にVRのためのセンシング・シミュレーション・ディスプレイ技術を中心に研究を進めています。VRはゲームだけでなく、体験例に挙げた防災や、スポーツ・医療・教育トレーニングなどさまざまな社会的応用が見込まれます。

研究室の学生には自らの興味のありかを主体的に探り、それを社会に貢献する技術やシステムの開発につなげていくことを期待しています。

井村 誠孝 教授

触覚を用いたVR研究の可能性を探る

酒匂(さこう) 大輝さん
理工学研究科M1年生

VRというとヘッドマウントディスプレイ(以下、HMD)を使用した視覚分野VRだけだと思われがちですが、そうではありません。VRでは五感(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)を用いた研究も進められています。私はその中でも、視覚の次に期待されている「触覚(感)」を用いた研究をしています。私の提案システムでは空気の噴流を使って触感を提示するのですが、個人差があまりない視覚とは異なり、触感は人によって「痛い」「痒(かゆ)い」など感じ方がさまざまで、現在提示可能な触感の範囲を探っています。

触感の研究は、施術経験が少ない医師が不整脈と正常な脈の違いを知る練習用として、また視覚のVRと併用し、HMDをつけて見えているものに触るといったエンターテインメント業界にも応用できます。多くのサンプルを集めて、研究の可能性を広げ、今後の実用化の方向性を探ります。

このコーナーでは、KGB総部放送局が記事と映像で、
部活動に励む関学生のイキイキとした姿をお届けします!

突撃! KG CLUB by KGB

応援団総部 吹奏楽部

「学生主体」で、仲間と共に音楽を作り上げる応援団総部吹奏楽部。名の通り、コンクールやコンサートといった吹奏楽部としてのステージだけでなく、体育会の応援や依頼演奏の場でも華々しい音楽を咲かせています。「共に、前へ」の理念を掲げ、学生指揮者を中心に個人やパートでの練習、合奏練習で日々音色に磨きをかけています。

練習日　月曜以外
部員数　約60人
活動場所
西宮上ケ原キャンパスの新学生会館や中庭

取材レポート

11月24日に定期演奏会を終え、今まで部活を引っ張ってきた4年生から部を引き継いだ3年生。そんな代替わり前の、最後のステージに向け懸命に練習に打ち込む4年生と最高のステージを作ろうと励む下級生の姿に迫りました。幹部の方々の部活に対する思いをぶつけたインタビューなどを収録。ぜひご覧ください!

動画をCHECK!
⬇映像はこちらから

インタビュー
現・次期幹部陣の皆さん

支えて下さる方々に感謝の手紙を送ろう!!
84人全員で最高の演奏するぞ〜
みんないつもありがとう♥ Hm布袋

Q.どんな活動をしていますか?

普段は新学生会館や中庭でパートに分かれて個人練習やパートでの練習、学生指揮者による合奏練習などをしています。常任指揮者の先生がいらっしゃるので、本番前はその先生に見てもらうこともあります。

Q.ステージにはどのようなものがありますか?

夏の吹奏楽コンクールやアンサンブルコンクールといったコンクール、定期演奏会や体育会の応援のほか、式典などで演奏してほしいという依頼を受けて学内外で演奏しています。

Q.吹奏楽部の魅力は?

体育会の応援に行かせていただくことがあり、いつもと違った雰囲気の中で演奏できます。他にも依頼などでさまざまな場所に行けることです。

演奏者にいい音色で吹いてもらうために「この音色とこっちの音色、どっちの方がいい?」と、音の良しあしを分かってもらうことが大切で、そのためには自分もそれを分かっておかなくてはいけません。実際に自分で楽器を吹いてみて、演奏者に吹いてほしい音色を提示できるようにしています。

KGB総部放送局

関西学院大学で唯一の放送団体。アナウンス、ドラマ、技術、制作、報道の5パートに分かれ、昼休みの放送、番組制作、イベント音響などさまざまな活動を行っています!興味のある人はTwitter、ホームページなどをご覧ください!

HP→http://www.everyday-kgb.com
Facebook→https://m.facebook.com/KGBbroadcast
Twitter→https://twitter.com/KGBbroadcast

トランペットやチューバといった見た目も華やかな金管楽器、クラリネットやサックスといった柔らかな音色の木管楽器、皆さんおなじみの打楽器。それ以外に、コントラバスやハープなどの弦楽器も吹奏楽部の要です。たくさんの楽器と指揮者で一つの音楽を作り上げていきます!

Go Global!

いろいろな文化や考えに触れ人としての幅が広がった

1年生と2年生の8月にそれぞれ2週間、インドネシアの協定校サティヤ・ワチャナ・キリスト教大学の学生と共同研究や文化交流を通じて相互理解を深める「インドネシア交流セミナー」に参加しました。

現地開催だった1年目はジャワ島にあるサラティガという地域に行きました。主な活動は、フィールドトリップやプレゼンテーション、そして、互いの文化を紹介するカルチャーシェアリングなどでした。カルチャーシェアリングでは、学校の制服を紹介するファッションショーや、ソーラン節、書道パフォーマンスを披露しました。出発の数カ月前から少しずつ準備を始め、直前の数週間は毎日のように他の学生と集まって練習をしていました。準備は大変でしたが、すごく楽しくて、現地の学生が喜んでくれたことが今でも印象に残っています。

⬆カルチャーシェアリングの様子

期間中は、デイリーペアといって、毎日違う人とペアを組んで2人一組で行動しました。私は英語が得意なわけではなかったので、コミュニケーションに大変苦労しましたが、現地の学生はとても優しく、生活面も含め、さまざまな場面でサポートをしてくれました。そうしたこともあり、日本開催だった2年目は、ホストの立場から現地学生に恩返しをしたいという思いを持って参加しました。前年に一緒に活動した学生と再会できたことや、全ての日程を無事に終えられたことはうれしかったです。

⬆日本でのフィールドトリップ（右が木下さん）

このセミナーに参加して、人としての幅が広がったと感じています。インドネシアの方との交流はもちろんのこと、他学部の学生や先輩方とも一緒に活動できたことで、いろいろな文化と考え方に触れることができました。セミナーを通じて出会った人は、今でも連絡を取り合い、互いに高め合える存在なので、参加して本当に良かったと思います。

インドネシア交流セミナー
木下 陽子さん（教育学部3年生）
派遣国▼インドネシア

My favorite KG

ウィルヘルム クワルネス
WILHELM KVALNES さん
（ノルウェー科学技術大学 交換留学）
ノルウェー出身

日常の小さな日本の文化も経験したい

― 日本に留学した理由は。

ノルウェーでは、交換留学を当たり前のようにしますが、ほとんどの人がアメリカやヨーロッパに行きます。日本の文化はノルウェーのものと大きく違うので、それを実際に体験したいと思いました。文化が大きく違う日本で生活できれば、世界のどこでも住めると思います。

― 関西学院大学を選んだ理由は。

留学生のコーディネーターが「東京より関西地方の方が落ち着いていて、特に関学は素晴らしい」と教えてくれました。留学先には四つほどの候補があったのですが、関学を見て「ここだ！」とすぐに決めました。すごく穏やかで、美しいキャンパスです。BIG MAMAやBIG PAPAの周辺がお気に入りで、ダンスを練習している学生たちを見ながらリラックスしています。中央芝生から見る山もすてきです。

― 普段の過ごし方を教えてください。

毎日5分ぐらい寝過ごしてしまうので、朝は少しバタバタしています。授業では、マネジメントに関する発表をすることが多いです。午後6時ごろに授業を終え、学寮に戻ってルームメイトと一緒に外食をするか自炊をし、その後に映画を見たり、宝塚周辺を散歩したりします。授業以外ではちょっとした冒険をしています。この前まで沖縄にいましたし、京都、大阪、神戸にも数回行きました。観光パンフレットに載っている場所だけでなく、日常の小さな日本の文化も経験したいです。英語を話せる人が少ないですが、通訳アプリやジェスチャーを使えばなんとなく会話が成立します（笑）。

⬇友人と一緒に足湯で

― 関西学院大学への留学を考えている人にアドバイスはありますか。

日本語を勉強して来た方がいいです（笑）。寛容でいることも大事です。例えば、和食レストランで英語表記のメニューがないときに、「これをお願いします」と適当に指を指して、運ばれてきたものを食べられるくらいの寛容さです。どんなことがあっても、精いっぱいやりくりすることです。私自身、いろいろなビジネスシチュエーションで、正しい対応が明白でなくても、ふさわしい対応を理解するようになりました。考え方も少し変わりました。個人主義ではなく、公益を大事にするようになって、気が長くなり、ストレスをそこまで感じないようになりました。

― 最後に好きな日本語を教えてください。

「分かりません」をよく使いますが、使うたびに自分の無知を感じてちょっと複雑な気持ちになります。「はい」もよく言います。

― 「分かりません」はインタビューの最後にふさわしくないかもしれませんので、「はい」にしましょうか。

はい（笑）。

数字でみる関学

今号の特集テーマでもある「ボランティア」。ボランティア活動に関心がある学生、また、実際に活動をしたことがある学生はどれくらいいるのでしょうか。

ボランティアについて

※高等教育推進センターでは、第19回カレッジ・コミュニティ調査を2016年6～7月に実施し、報告書を17年3月に発行しました。報告書の「ボランティアについて」を参考に紹介します。

Q1 これまでに何らかのボランティア活動をしたことがありますか?

「はい」と答えた学生が **43.0%**！

Q2 今後、ボランティア活動をしたいと思いますか。

「強くそう思う+そう思う」と答えた学生が **67.7%**！

学生の半分近くがすでに何らかのボランティア活動を経験しており、また、7割近い学生がボランティア活動への参加に関心を持っていることが分かります。活動に関心がある学生は、ぜひ、関西学院大学のボランティアセンター「ヒューマン・サービス支援室」を有効活用してください。※「ヒューマン・サービス支援室」については7ページをご覧ください。

ちなみに…

ボランティア活動への関心（Q2の回答）について学部別に比較すると、肯定的な回答の割合が多い学部は以下の通りでした。

1位	教育学部	92.7%
2位	神学部	83.4%
3位	人間福祉学部	78.0%

これらの学部には、それぞれの学部の性格上、ボランティア活動への関心の高い学生が多く集まっており、回答結果にも反映されたと推測できます。

ボランティア活動に関心を持ち、実際の活動にも参加しましょう！

多田修平選手がメダル報告 東京五輪への決意表明も

関西学院大学体育会学生本部は9月29日、「陸上競技部 多田修平 世界陸上競技選手権大会&ユニバーシアード競技大会 メダル報告会」を中央講堂で開催し、陸上競技部の多田修平選手（法学部3年生）が約800人の学生に両大会の結果を報告しました。

多田選手は、8月の世界選手権（ロンドン）で男子100㍍準決勝に進出。400㍍リレーでは銅メダルを獲得しました。その後のユニバーシアード（台北）では、400㍍リレーで金メダルを獲得しました。

報告会では、大きな拍手の中、多田選手が登場。壇上で世界陸上の銅メダルとユニバーシアードの金メダルを披露しました。

その後、陸上競技部副部長で短距離パートコーチの林直也・人間福祉学部准教授と対談し、「世界を意識し始めたのは、5月のセイコーゴールデングランプリ陸上2017川崎だった」「世界陸上の男子100㍍予選でウサイン・ボルト氏（ジャマイカ）の横で走ることが決まったのはレースの1時間前。とても緊張していた」「400㍍リレーの予選と決勝でユニホームが違うのは、上下が分かれている決勝のユニホームの方がメンバーが走りやすかったから」「銅メダルを取った夜はメンバーでお祝いをした」など当時の状況や裏話を話しました。最後に「安定して9秒台を出せるようになり、東京五輪では100㍍で表彰台に上がりたい」と宣言しました。

関西学院大学OB社長10人が トークセッションで学生と交流

関西学院大学は9月28日、OBの社長10人を中央講堂に招いてトークセッションを開催しました。社長たちは自身の経験を交えながら「企業秘話」や「今、注目している分野」「学生時代にやるべきこと」などについて話し、集まった約400人の学生に、新たな事業を起こすアントレプレナーとしての生き方があることや、持続的な成長には起業家精神に基づくイノベーション・新規事業開拓が必要であることを伝えました。

起業のきっかけの話では、「学生時代から何度も起業して、失敗もあったが、その時の経験が今に生きている」「最初はサラリーマンとして働いていたが、子どもが生まれたことをきっかけにスイッチが入り、起業を決めた」「インターネットが出始めた時に、これはすごい！と感じて、とにかくインターネットで事業を立ち上げようと思った」など、さまざまなエピソードが飛び出しました。

トークセッションは終始、和やかな雰囲気で進みながらも、将来についての貴重な話がたくさんあり、会場では熱心にメモを取る学生の姿が多く見られました。最後に学生へのメッセージを求められたKLab株式会社代表取締役社長CEOの真田哲弥氏は、「人は、『行動する人』と『行動しない人』に分かれると思います。今日の話を聞いて、皆さんには、ぜひ何かしらの行動を起こしてほしいです」とエールを送りました。

商学部・石淵ゼミが産学協同企画で ハロウィンをテーマに商品開発

マーケティングリサーチ、消費者行動論を専門とする商学部の石淵順也教授のゼミ生が産学協同企画として、大丸梅田店と連携し、スイーツ、総菜、パン、レストランメニューなどの商品を開発しました。テーマは「ゆめかわいい、おどろかわいい」で、10月11日から31日まで発売。ゼミ生は、今回から協同企画に加わった大阪文化服装学院の学生が制作したコスチュームを着用し、3日間店頭販売も行いました。発売前からメディアで注目され、本気度の高い商品が話題となりました。

今回は、「もっとインパクトがあって、笑える、話題になる〝ハロウィン〟にしたい！」という大丸梅田店の考えの下、ゼミ生は春学期から開発を開始。これまで大学で学んだ知識を活用し、主婦をメインターゲットにしたマーケティングリサーチを行いました。

調査結果を基に、商品原案、コンセプト、価格等を提案。8月の試食会では、提案に基づき作成された試食品を囲み、大丸梅田店の社員、各テナントの社長やパティシエと議論しながら、改良点を探りました。試行錯誤を続け、「ユニーク」で「売れる」メニューの商品化にこぎつけました。

小野寺天汰さんがテコンドー学生日本一 東京五輪で金メダルを目指す

小野寺天汰さん（商学部3年生）が、9月に開かれた「第11回全日本学生テコンドー選手権大会」の男子−74kg級で優勝に輝きました。

4歳から始めた空手では国内外のさまざまな大会で優勝してきましたが、昨冬、知り合いの勧めによりテコンドーへ転身。「自分がしているフルコンタクト空手はオリンピック競技ではないので、テコンドーでオリンピック出場を狙うのも面白いと思った」と振り返ります。

「将来的な目標は、空手を中心とした格闘技の普及と注目度アップに貢献すること。それが、お世話になった方々と自分を成長させてくれた空手への恩返しだと思う。そのためにも今は実績をどんどん残して、注目されるようになりたい」と話します。東京五輪に向けては「この先の試合全てに勝ってアピールするつもり。メダルを取らないと周囲に覚えてもらえないと思うので、金メダルを目指してやっていきたい」と意気込みを語りました。

佐藤洋・人間福祉学部教授が日本学術振興会から審査委員表彰

佐藤洋・人間福祉学部教授（内科学、循環器内科学）が日本学術振興会（JSPS）の平成29年度「科研費」審査委員表彰を受賞し、10月20日に西宮上ケ原キャンパスの学長室で村田治学長から表彰状が授与されました。

科学研究費助成事業を公正・公平に運営していくに当たり、審査委員の役割は非常に重要です。同会では、平成20年度から審査の公正性・公平性について検証し、有意義な審査意見を付した審査委員を表彰しており、本年度は約5,300人の第1段審査（書面審査）委員の中から255人が選考されました。

佐藤教授は「公平に配慮して審査した結果が評価されて、うれしく思います。審査を通じて、さまざまな研究について勉強できました。この経験を今後に生かしていきます」と話しています。

地域経済の活性化に貢献 兵庫県中小企業家同友会と連携協定

関西学院大学は11月1日、兵庫県中小企業家同友会と連携に関する協定を神戸市の生田神社会館で締結しました。

関西学院大学が保有する研究シーズと兵庫県中小企業家同友会が蓄えている情報やノウハウを用いて連携・協力し、双方の発展につなげるとともに、地域の中小企業、地域経済、さらには地域社会の活性化に貢献することを目的とします。

今後、「産学官の連携」「兵庫県中小企業家同友会のセミナー等への関西学院大学の教員や学生の派遣」「寄付講座など関西学院大学への中小企業経営者の派遣」「インターンシップにかかわる学生の派遣及び受け入れ」「中小企業の調査研究活動にかかわる教員や学生の派遣及び受け入れ」「地域経済の活性化や地域防災に関する事業」などを実施する予定です。

関西学生ダートトライアル選手権 自動車部が男子団体で優勝

「平成29年度第2回全関西学生ダートトライアル選手権大会」が10月29日、福井県オートパーク今庄であり、自動車部が男子団体の部で優勝しました。

台風22号の影響で雨が降りしきり、レースは地面に水がたまった状態で開始されました。コンディションが悪い中、関西学院大学は第1ヒートから積極的なレース展開を見せ、2人が最終個人成績2位、3位となり、好タイムを出しました。

貧困研究の第一人者に 人間福祉学部の学生がインタビュー

10月13日、世界的に権威のあるチャリティー団体ジョセフ・ラウントリー財団の副所長クリス・グールデン氏が大学院1号館で人間福祉学部の教職員を対象に講演を行い、参加した学生が、英国の子どもの貧困対策についてインタビューをしました。

グールデン氏は、政府が新たに導入する「ユニバーサル・クレジット」という制度や、子どもの貧困を解決するために活動している民間団体「子どもの貧困行動グループ（Child Poverty Action Group）」などについて分かりやすく説明しました。

インタビューを行った定久周平さん（人間福祉学部3年生・写真左端）は「英国は日本よりも国レベルでの貧困対策の取り組みが進んでいると感じた。同時に貧困問題の解決のために、国、企業、市民が一体となってサポートしていくことが重要であると思いました」と振り返りました。

経営戦略研究科が 工業標準化事業表彰を受賞

経済産業省は10月23日、ホテルニューオータニ（東京千代田区）で平成29年度工業標準化事業表彰（産業技術環境局長表彰）の授賞式を開き、関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科が受賞しました。

この表彰は、経済産業省が毎年行っており、わが国産業の発展に資するため、世界で通用する国際標準化人材の育成、わが国における工業標準および適合性評価活動の促進を図ることを目的としています。

経営戦略研究科は、標準化をビジネスに戦略的に役立てる授業科目「標準化経営戦略」を開講しています。この取り組みが工業標準化制度の教育に寄与し、他の模範となる功績を残したと高く評価されました。

授賞式には、「標準化経営戦略」科目創設以前から経営戦略研究科における標準化教育に主導的役割を果たしてきた松本隆・経営戦略研究科客員教授が出席しました。

アメリカンフットボール部ファイターズ 甲子園ボウルで日本大学に惜敗

アメリカンフットボール部ファイターズは、大学日本一を決める「第72回毎日甲子園ボウル（全日本大学選手権決勝）」で東日本代表の日本大学フェニックスと対戦、17−23で惜しくも敗れました。

選手たちは最後まで粘り強いプレーを見せましたが、2年連続の学生日本一をつかむことはできませんでした。試合終了後、観客でいっぱいになった関西学院大学側スタンドからは選手たちの健闘に惜しみない拍手と声援が送られました。

理工学部の佐野圭博士研究員と松浦周二教授が 星間ダストによる星の散乱光が持つ異方性の謎を解明

理工学部の佐野圭博士研究員と松浦周二教授（写真右）は、星間ダストによる星の散乱光が持つ異方性の謎を解明しました。

晴れた日に窓際から差し込む光の筋がほこりの散乱によって見える「チンダル現象」と同じように、天の川に漂う星間ダストの雲は星々の光を散乱し淡く光ります。同研究チームはこれまでに、近赤外線で星間ダストの光散乱の強さが銀緯により変化することを発見しましたが、その原因は不明でした。今回の研究では、星間ダストによる光散乱の異方性や星間ダストの温度を考慮することで、光散乱の強さの銀緯変化を説明できることが分かりました。この成果は、星間ダストの性質の解明に寄与するだけでなく、将来的には近赤外線の宇宙背景放射の測定に役立つことが期待されます。

この研究成果は11月1日に学術誌「アストロフィジカルジャーナル」に掲載されました。

陸上競技部が丹後駅伝で優勝！ 創部初の快挙

「丹後大学駅伝第79回関西学生対校駅伝競走大会」が11月18日、京都府京丹後市であり、陸上競技部は一度も首位を譲らず、創部初の優勝に輝きました。

京丹後市の天候は雨で、良いコンディションとはいえない中でのレースとなりました。1区に抜擢された仲村尚毅選手（文学部4年生）が区間賞の力走でチームを勢いづけました。続く2区の川田信選手（経済学部1年生）、3区の川島貴哉選手（商学部2年生）、5区の石井優樹選手（経済学部2年生）も区間賞の走りで、他大学を引き離し、6区のエース・野中優志選手（経済学部4年生）へ。アップダウンの激しいロードをものともしない快走で、見事、区間新記録を更新。その後もたすきをつなぎ、4時間18分09秒でゴールテープを切りました。

藤原直樹・駅伝主将（文学部4年生）は「1年間での一番大きな目標が丹後駅伝優勝だったので優勝できて良かった。後輩には、関東に割って入れるくらいレベルアップし、今大会を連覇してほしい」と話しました。

ネットワークシステム研究会で 理工学研究科M1年生が若手研究奨励賞

電子情報通信学会ネットワークシステム研究会が11月16日にあり、山崎強志さん（理工学研究科M1年生・巳波研究室）が若手研究奨励賞を受賞しました。

若手研究奨励賞は、ネットワークシステム研究会における若手研究者による奨励講演のうち、特に優秀であり今後の活躍が期待できると認められた発表者に対して贈られる賞です。

受賞研究は「リンク故障確率を考慮した断続的リンク故障に対する復旧順序決定法」。大規模災害時における余震などによる再度の被災も考慮した適切な通信ネットワーク復旧計画策定法に関するものです。これを離散最適化問題として定式化し、数学的な性質を解明し、さらに有効なアルゴリズムを設計したことが高く評価されました。

関学カプセル…36

山川記念館

～幼児教育関係者の学びの場～

山川記念館は、聖和幼稚園（2016年度より関西学院幼稚園に名称変更）の設置や、全国初の4年制幼児教育学科、幼児教育学専攻大学院の開設など、聖和大学の発展に貢献した山川道子元聖和女子大学学長・聖和大学理事長（1905～1988）と、その妹の山川範子元聖和女子大学教授（1910-90）による寄付（基金）、そして聖和大学130周年記念事業における卒業生をはじめ多くの方の募金を基に2009年12月に完成しました。

1階にある子どもセンターでは、「地域の子育て中のご家族や支援団体の交流の場を提供する『地域の子ども・子育て支援事業』」「発達に何らかの配慮を必要とする子どもと保護者のための『発達支援事業』」「資料を通してあそび、学ぶという体験型の学習環境を備え、学生のための教育、研究を支援する『おもちゃとえほんのへや事業』」の三つを軸に、乳幼児保育や子育て支援の研究・教育を展開。2階には、関西学院創立者のW・R・ランバスの母で、聖和大学の前身の一つであるランバス記念伝道女学校の創始者の名前を取った「メアリー・イザベラ・ランバスチャペル」があります。

教育に携わる研究者、学生、教育保育従事者の学びの場とするほか、実際に地域の子育て支援の拠点として活用されています。

三つのキャンパスで クリスマスツリー点灯式を開催

関西学院は12月4日、クリスマスツリー点灯式を西宮上ケ原、西宮聖和、神戸三田のそれぞれのキャンパスで開催しました。

雨天のため、西宮上ケ原キャンパスは中央講堂で行われ、初等部の児童、中学部・高等部の生徒、大学生、近隣の方々、教職員が集いました。吹奏楽部の演奏で讃美歌を歌った後、中道基夫・神学部長が「それぞれの心の中にイエス様を迎えられるよう、自分の心の中を見つめ直し、心を聖なるところにしてください」などとクリスマスメッセージを語りました。その後、大学生、高等部・中学部の生徒、初等部児童の代表が加わり、カウントダウンの掛け声に合わせて点灯ボタンを押すと、時計台左右のヒマラヤスギにかけられた電球が一斉に光を放ち、歓声が沸き起こりました。

黒田東彦・日本銀行総裁が講演 中央銀行の使命と役割を解説

関西学院大学は11月7日、日本銀行総裁の黒田東彦（はるひこ）氏による講演会「中央銀行を巡る法と経済学」を関学会館で開きました。金融政策を決定する日本銀行のトップの講演に、学生や教職員ら約550人が集まり、熱心に聞き入りました。

黒田総裁はまず、日本銀行創立以来の歴史を踏まえながら、現在の日本銀行法が定める「発券銀行」「銀行の銀行」「政府の銀行」という三つの役割について説明しました。その上で、金融緩和策の中で議論になっている国債の引き受けに関して、「財政法で禁じられている。市中から国債を買うことはあるが、直接引き受けることはない。国に対しては、多様な金融サービスを提供しているが、財政ファイナンスは決してしない」と強調。為替介入もあくまで国の代理人として財務省の指示に基づいて行っていることを説明し、「こうした役割を果たす中で、金融の安定、物価の安定を図っている」と話しました。

2013年から続ける大規模な金融緩和策については、「物価を2%上げること自体が最終的な目的ではなく、経済が安定的に成長し、それに伴って賃金や物価が安定的に上がっていくことを狙っている」と説明。「デフレが続くもとで、経済が健全に発展することはない。物価の安定を通じ、国民経済の健全な発展に資するということを考えている」と述べました。一方で、金融政策を決める政策委員会についても詳しく解説。政府から独立した合議体であることを強調し、「政府と十分連絡を密にし、意思疎通を図りながらも、政府から政策を指示・命令されることはない」と説明しました。

講演の後、経済学部の学生との質疑応答があり、「国民の理解を得るために、どんな工夫をしているか」という質問に、黒田総裁は「現在行っている金融政策は伝統的な金融論の教科書が想定していないものであり、簡単に説明することは難しいが、今回のような大学や経済団体での講演、地方での会合などあらゆるチャネルを通じて、何をしているか、どういう意味があるのか、どんな効果や副作用があるのかを丁寧に伝えるよう努めている」と答えました。また、地域金融機関の再編などについての質問には、人口減少・高齢化など地方の現実を踏まえ、「ITなど新しい技術を使った効率化と、顧客とのリレーションシップなど、地域の金融機関ならではの強み・役割の強化の両方が大事だ」と述べました。

KG☆グルメ

BIG MAMA&BIG PAPA（西宮上ケ原キャンパス）

チキンクリームシチュー

寒い日に食べたくなるのが「チキンクリームシチュー（216円）」。食べれば体の芯から温まり、心もほっと落ち着きます。たっぷりの鶏肉と野菜に加え、牛乳を使っているので、普段摂取しにくいカルシウムもカバーできるのがうれしい！「チキンクリームシチュー」を食べて、今年の冬も乗り切りましょう。

学院通信

初等部の児童たちが「心のハーモニー」を披露

関西学院初等部は11月18日、関西学院大学西宮上ケ原キャンパスの中央講堂で第3回音楽祭を開きました。今年のテーマは「とどけよう心のハーモニー」。どの学年の児童たちも、仲間と一緒に心を一つにして音楽を奏でました。

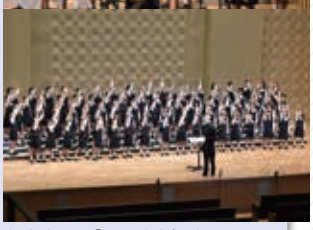
音楽祭の練習は9月から始まりますが10月中旬に体育祭が開かれるため、本格的に練習に取り組めるのは、その後の約1カ月。児童たちは、楽譜に演奏の際の注意点を書き込んだり、歌う時の表情や立ち姿、舞台への上がり方を一つずつ確認したりと、細部にまでこだわった練習をしてきました。

音楽祭は、3年生による力強い歌で開幕。第1部では、3年生、1年生、5年生が練習をしてきた成果を披露。1年生は鈴やカスタネットなど小さな楽器を使いながらも、会場いっぱいに響く音色を奏でました。第2部に登場した6年生は、さまざまな楽器を使って、最上級生らしい迫力のある合奏を披露。「歌詞の意味や作者の思いを理解するために、一つ一つの歌詞に目を向け、曲についても調べた」という「明日の空へ」の合唱は感動的で、まさに「心のハーモニー」そのものでした。

指導してきた音楽科の秋山澄恵教諭は「音楽科の授業で大切にしているのは『心の表現』。子どもたちには、日々感じる思いや考えを自分で表現できるようになってほしい。音楽はその一つの手段だと思っています。仲間と協力して練習を積み、一つの音楽を作り上げることで、たくさんのことを学んでくれたと思います」と話しました。

会場は約900人の保護者でいっぱいになり、演奏が終わるごとに、児童に向けて大きな拍手が送られていました。

⬇6年生は大きな楽器を使って合奏を披露



⬆4年生による「それが大事」の合唱

京都賞受賞の三村髙志氏に名誉博士学位を贈呈

関西学院大学は12月7日、理学部物理学科の卒業生で、2017年度の第33回京都賞（先端技術部門）を受賞した三村髙志氏（株式会社富士通研究所 名誉フェロー）を招き、名誉博士学位を贈り、記念講演会を開催しました。

三村氏は、2種類の半導体を積層化した新構造の「高電子移動度トランジスタ（HEMT）」を発明し、伝導層内の電子移動度が高くなるため優れた高周波特性を持つことを解明。この研究により、HEMTが高い周波数まで優れた特性を示すことを実証し、電波望遠鏡や衛星放送向けの送信機への応用を開拓するなど、情報通信技術の発展に大きく貢献しました。その後、極薄伝導層内の電子の物性研究の進展にも力を注ぎ、今回の京都賞受賞に至りました。

授与式のスピーチで、三村氏は「理学部を卒業してからちょうど半世紀になる今年、このように名誉な学位記を拝受することになったのは何かの偶然としか言いようがありません。これまでの研究も偶然の連続であり、予想外の出来事との出合いが驚きと感動を与えてくれ、それが研究のモチベーションにもなっています」と研究を振り返りました。

講演会では、挑戦することの大切さについて、「『チャンスは準備された心だけに訪れる』という言葉があり、私は、準備された心というのは感受性のことだと思っています。失敗はマイナスなことではなく、失敗したことで新しいアイデアに気付くということもある。私の場合、研究で多くの挑戦と多くの失敗を経て感受性を育むことができました」と話しました。

“Mastery for Service”の精神にも触れ、「Masteryとは自分の知識やスキルを高めること、Serviceとは世のため人のためにその能力を使いなさいということだと理解しています。自分の長所を高め、実際に世のため人のために使ってみる。そこから得た学びを改善につなげる。こうしたサイクルがさらなるイノベーションを生み出し、より良い世の中をつくっていくのではないかと思います」と話しました。

読者アンケート&プレゼント

関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で5名様に「KGメタルボールペン（ブラックorワイン）」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2018年3月23日㈮。当選は発送をもってかえさせていただきます。

スマートフォン

パソコンURL↓

http://www.kwansei.ac.jp/r/kgjournal/

※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

関学ジャーナルへのご意見・ご感想はWEBでも受け付けています。▶関学ジャーナルご意見・ご感想フォーム URL→http://www.kwansei.ac.jp/form/kgjm.html

世界の街角から
Republic of Singapore

株式会社クラレ（Kuraray Asia Pacific）
山本 歩さん
（2013年理工学研究科修士課程修了）
元プロ野球選手

文化の異なる相手を尊敬し自分の考えも伝える

入社4年目にシンガポールへの異動を命じられ、1年が経ちました。入社時、私は研究職に就きましたが、現在は技術営業として、お客さんを訪問し、自社商品の使用方法などをレクチャー！サポートする仕事をしています。

海外に駐在することになったきっかけは、社内で最もグローバル化した部署への配属です。入社時、私は全く英語ができない上、興味もなかったため、海外駐在を少しも想像していませんでしたが、配属をきっかけに勉強を始め、選ばれる形で駐在が決まりました。

シンガポールは東京都と同じぐらいの国土しかないため、普段は顧客を求めアジア諸国を飛び回る生活をしています。駐在までアジアのイメージは全く持っていなかったのですが、どこの国も首都は日本と遜色ないレベルまで発達しており、高層ビル、高速道路や地下鉄の建設ラッシュとダイナミックな経済成長を感じることができます。

しかし、食事や文化は国々によって異なり、特に日本人にはなじみのない宗教について考えることの重要さを感じています。彼らとうまくやっていくためには、それを理解し、また自分（日本）の存在感を示す必要があると感じています。これに関して、関学で体育会に所属した経験が役立っています。私の感覚ですが、理系の人と文系の人ですら別人種で、それぞれの対応方法に苦労しました。結論は、相手のことをリスペクトし、また自分の考えも伝えることで克服でき、その考え方が現職に役立っています。

大学生活を通していろいろな人と接し、違和感を覚え、考えることが、海外生活の助けとなっています。皆さんも一度、普段話さない人と話してみてはどうでしょうか。機会はそこ（関学）にあります。

⬇会社の窓からの景色。マリーナベイサンズや手前にはラッフルズホテル

協定校紹介

Republic of Singapore

シンガポール国立大学　National University of Singapore

1905年に創立されたシンガポールで最も古い最大の大学。1980年にシンガポール大学と合併し、政府の方針により公用語を英語としました。約3万5,000人の学生が在籍しており、3分の1が世界100カ国以上からの留学生という国際色豊かな大学です。

シンガポールの南西部、ケントリッジに位置するキャンパスは東京ドーム32個分の広さがあり、11の学部と三つの専門大学院により構成されています。英国のタイムズ・ハイヤー・エデュケーション（Times Higher Education, THE）が発表したアジア大学ランキングでは2年連続首位に輝きました。

大学図書館ホームページでは、WEBデータベースや図書館活用術など、幅広い情報を分かりやすく紹介しています。教職員の新刊情報も随時更新。「関西学院大学図書館」で検索！

おニュー特集

各キャンパスの図書館にある「新しいもの」をご紹介！

西宮上ケ原キャンパス

講談社文庫

★3階 新書･文庫コーナーに追加
★約3,000冊

西宮聖和キャンパス

先生のおすすめの本コーナー

★4階に開設
★読書の楽しみを知ってもらうために先生方が推薦した図書

神戸三田キャンパス

角川文庫

★3階 新書･文庫コーナーに追加
★約2,000冊

教職員の新刊

古川柳入門
森田雅也文学部教授監修
関西学院大学出版会

たからづか学
まちの姿と歴史文化が語る宝塚
定藤繁樹経営戦略研究科教授編著
関西学院大学出版会

エッジを歩く
手紙による差別論
三浦耕吉郎社会学部教授著
晃洋書房

金融の仕組みと働き
岡村秀夫商学部教授・田中敦経済学部教授共著
有斐閣

8割捨てる！ 情報術
理央周（児玉洋典経営戦略研究科准教授）著
日本経済新聞出版社

動物たちを救うアニマルパスウェイ
湊秋作教育学部教授著
文研出版

賀川豊彦の社会福祉実践と思想が韓国に与えた影響とは何か
李善惠人間福祉学部准教授著
ミネルヴァ書房

東北アジア平和共同体の構築と課題
山本俊正商学部教授監修
佼成出版社

レクチャー&エクササイズ経済学入門
上村敏之経済学部教授著
新世社

取締役･取締役会制度
近藤光男法学部教授著
中央経済社

なるほど！ 心理学実験法
佐藤暢哉文学部教授・小川洋和文学部教授共著、三浦麻子文学部教授監修
北大路書房

なるほど！ 心理学調査法
大竹恵子文学部教授編著、三浦麻子文学部教授監修
北大路書房

消費大陸アジア
川端基夫商学部教授著
筑摩書房

福祉職･介護職のためのマインドフルネス

グーグルやアップル社も社員の健康増進と創造性を高めるために導入しているマインドフルネス。瞑想を中心としたその方法は、脳神経科学によっても効果が認められ、欧米ではストレス低減や疼痛コントロールに生かされています。本書は、福祉現場で働く人たちに向けて、マインドフルネスの仕組みと実践方法を解説した初の入門書です。呼吸瞑想や歩行瞑想などに加えて、福祉や介護の現場で生かせる多くの方法を紹介しています。

池埜聡･人間福祉学部教授著　194ページ　中央法規出版

核兵器禁止条約の意義と課題

2017年7月7日、国連で核兵器禁止条約が122カ国の賛成で採択されました。この条約は著者が学生時代以来、被爆者とともに取り組んできた原水爆禁止運動の努力が結実したものです。本書は、専門研究者としてではなく一市民として、40年にわたって原水爆禁止運動に関わり続けてきた著者が、採択された核兵器禁止条約の内容と核兵器の禁止からその完全廃絶への展望、そしてこの条約をもたらした世界の不可逆の流れについて論じています。

冨田宏治･法学部教授著　96ページ　かもがわ出版

聖書に聞く

人間福祉学部宗教主事　嶺重 淑

やめさせてはならない。
あなたがたに逆らわない者は、
あなたがたの味方なのである。

ルカによる福音書 9章50節

これは、見知らぬ人物がイエスの名前を無断で使って活動していたので、それをやめさせようとしたという弟子のヨハネの報告を聞いて、イエスが語られた言葉です。ここでイエスは、自分たちの集団に属さない人たちを仲間と認めようとしない弟子たちの偏狭な姿勢を戒めています。

しかし、このように自分とは異質な人々を排斥しようとする傾向は、歴史上のあらゆる人間集団に共通して見られるものですし、グローバル化した今日の世界においては、この傾向が以前に増して強くなっているように思えます。特に最近、「○○ファースト」という言葉が頻繁に用いられるようになりましたが、よく考えてみると、特定の人々や集団を優先させるということは、往々にしてそれ以外の人々を軽視し、それこそ「排除する」ことにつながっていきます。

このような排他的な姿勢の根底には、自分たちを世界の中心に置いて自らの立場を守ろうとする自己中心的な発想があるように思いますが、なにより、このような特権意識を克服し、他者に対して開かれた寛容な姿勢を持つことが私たちに求められているのではないでしょうか。

編集後記

岩本裕子先生の「ボランティアは当事者と社会のパイプ役」という言葉が印象に残る。ボランティアは、当事者たちの声を社会に届け、社会を動かすことができる。参加している学生は、自分たちの活動を誇りに思ってほしいし、参加を迷っている学生はぜひとも一歩を踏み出してほしい！（りょ）

関西学院大学 Facebook

いいね！

関西学院大学の身近なニュース、キャンパス風景、動画などを紹介。英語版ページもますます充実。「いいね！」をして関西学院大学の情報をゲットしよう。

日本語版

英語版

関西学院大学 Instagram

関西学院大学のキャンパスや授業風景、学生の活動の様子など、さまざまな瞬間を写真や動画で紹介しています。ぜひフォローしてください。

アカウント名 関西学院大学／Kwansei Gakuin University

関西学院通信［関学ジャーナル］
1月／258号
KG JOURNAL
発行日／2018年1月17日　発行／関西学院大学　編集／広報室　〒662-8501 西宮市上ケ原一番町1-155　0798-54-6017　http://www.kwansei.ac.jp/　制作／㈱神戸新聞総合印刷

阪急阪神ビルマネジメント株式会社

ビルマネジメントの
新しいステージへ。

変わりゆく街とともに、
常に最適なトータルマネジメントを
提案いたします。

阪急阪神東宝グループ

阪急阪神ビルマネジメント株式会社

本社　〒530-0012 大阪市北区芝田1丁目1番4号 阪急ターミナルビル
TEL.06-6372-7900（代表）

東京　〒104-0061 東京都中央区銀座2丁目5番4号 ファサード銀座
TEL.03-5524-7800（代表）

http://www.hhbm.hankyu-hanshin.co.jp